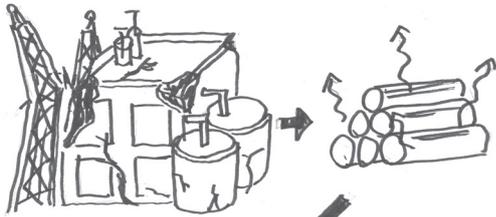




令和元年 7 月 5 日 (金)

おもて

廃棄物はどこへ？



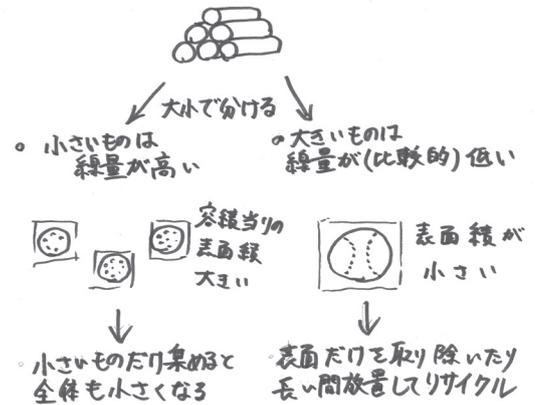
(背景)

除染で出た廃棄物でさえ最終処分場が未だに決まていないのに、高濃度の汚染を受けた建材やデブリを捨てる場所が決まるのだろうか？

うら

Q. 高濃度の放射性汚染物である建屋の建材やデブリはどこに廃棄されるのか？

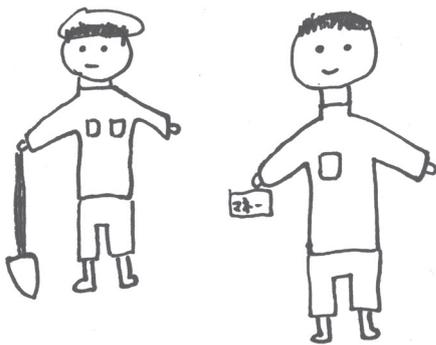
A. 減容化をして細かく分け、まとめて廃棄



科学的には時間をかけたり細かくしたりして、減容化できるが、社会的な合意を形成する必要はある。

おもて

作業員の労働環境は？



作業員はどのような人になるのか、不安なのか。

うら

廃炉作業をしている作業員は放射線の影響を受けていないのかまた、誰になるのか。

<安全性>

- ① 震災から間もない時期は作業員の被曝線量が高かったが、除染作業も進み、現在はほぼ 0mSv に近い値となっている。
- ② 作業服は厳重にするため、冬でも汗が溜まるほどの量が出るという。熱中症になる人も多かったが、今はその対策も行われている。

<誰になるのか>

東電社員の人もいるが、他の会社からのエンジニアやローワークなどを通じ派遣された人など、幅広い人達が作業を行っている。

- ・労働環境は改善されている。
- ・それぞれ役割があり、分野ごとに効率良く作業が行われている。

おもて

また津波が来たら
どうする!?



◇ 廃炉作業を行っている 30~40年の間に、地震や津波が起こる可能性は十分にある。その時に放射性物質がまた拡散してしまうのでは?
対策は? そのための資金は?

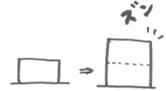
うら

再び、大きな災害が原子力発電所をおおった場合、
どのような二次災害が起こるのか? また、その対策は?

※ 廃炉作業中の原子力発電所を指す。

◇ 津波による浸水対策

① 既設防潮堤といり、元来た防潮堤にさらに高い防壁をつく、2.4m~4.2mの高さを防壁するよりにしている。



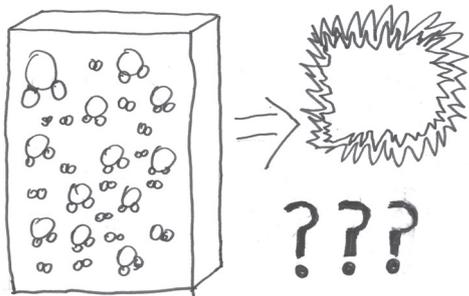
② 事故当事、電源設備に水が入りやすくなるために、津波が来た際に水がショートしてしまふため、事故後、水がはじり入らばいよば扉に変え、冷却設備が常に稼働するよりにしている。
東京電力が稼働させている。

③ 資金は、国が東電に貸し出す(格別北田)
年間2000億 ~~円~~ $\yen 8,000,000,000,000$

◇ 根本的には安全対策は廃炉作業と長引かせばいいとテマリを早急にとりだし、除染処理することが大切。

おもて

再び爆発する危険
はないのか?



そもそも前回の爆発はどんなものなのか?

再び爆発するのか?

うら

<2011年の事故>

↳ 水素爆発

水素と酸素が反応することで起こる

ジルコニウム + 水蒸気 → 水素

<現在の状況>

放射線が水にあたると水が分解
水素が発生!!
↓
どう処理しているのか?

窒素を入れることで内部の気圧を上げ
水素を外部へ逃がし、酸素の侵入を防ぐ

この方法が現在正しいとされていて
爆発を防いでいる。

→ 予測不能な事態が起こる可能性
もいはいえない

1FDIV 第4回福島第一廃炉国際フォーラム

はいろのいろは・共創ワークショップ

